

平成 21 年度

大 学 職 員
情 報 化 研 究 講 習 会
～応用コース～
開催要項

日程：平成 21 年 11 月 11 日(水)～13 日(金)

会場：浜名湖ロイヤルホテル（静岡県浜松市）

社団法人私立大学情報教育協会
大学職員情報化研究講習会運営委員会
<http://www.juce.jp/oyo2009/>

1. 開催趣旨

次世代を担う人材育成、国際化への対応や生涯学習など、大学が掲げる「学士力」や教育の質の保証を実現し、大学教育に対する時代の要求に答えていくためには、戦略的な計画立案と教育環境の構築が不可欠であり、大学職員には、大学の直面する課題について、その解決に必要な情報を収集、分析、評価し、解決策を提案・実行する、情報活用能力と実行力が求められる。

本コースは、ICT（情報コミュニケーション技術）を活用した先進的な実践事例に学ぶとともに、参加者相互の自由な意見交流と創造的な討議を通じて、教育改革の推進や人材育成支援に必要不可欠なコーディネート力やマネジメント力など職員一人ひとりの資質向上を目指すことを目的とする。

2. 期待される成果

- ・ 大学教育を取り巻く環境の変化について認識を深めるとともに、今まで気づかなかった自大学の現状や課題を発見する
- ・ これからの大学職員に求められる役割を大学の教育目標との関係から捉えなおし、大局的な視野でコーディネートやマネジメントに関わろうとする意識を獲得する
- ・ 大学の情報化を推進しようとする際に向き合わなければならない人的、組織的課題を認識するとともに、これを解決する上での視点を獲得する
- ・ ここで培った他大学職員との人的ネットワークを活用し、研究講習会終了後も自大学の課題解決にあたっての情報収集や意見交換を行う場を形成する

3. 参加対象者

私立大学・短期大学に所属する職員で、大学の業務を1年以上経験した方（当協会への加盟・非加盟は問わない）ならびに本研究講習会の開催内容に関連する当協会賛助会員企業の方を対象とする。

4. 日程・会場

日程：平成21年11月11日(水)午後0時30分～13日(金)正午解散

会場：浜名湖ロイヤルホテル

(〒431-0101 静岡県浜松市西区雄踏町山崎 4396-1 ☎053-592-2222)

- ※ 本研修は合宿研修となります。参加者は全員上記ホテルへ宿泊いただきます。
- ※ 原則としてツインルームとします。健康管理については十分ご注意ください。部屋の割り当ては当方で行います。
- ※ 最寄り駅 JR 東海道本線「舞阪」駅（東海道新幹線「浜松」駅より約5分）より送迎バスを用意しております。

5. 申し込み

参加費： 加盟校・・・1名につき28,000円／非加盟校・・・1名につき42,000円

その他に宿泊費(2泊5食付)として27,500円を初日受付時に直接ホテルにお支払い下さい。

申し込み方法：

各大学で参加希望をおとりまとめの上、10月7日(水)までに、**本講習会 Web サイトからお申込みください**。何らかの事情により Web からお申込みいただけない場合は、申込用紙を Web サイトよりダウンロードの上 FAX 願います。参加申込者についての必要事項は必ず全員分記入してください。締切日を過ぎても定員に余裕があれば受け付けますので、お問い合わせ下さい。

Web: <http://www.juce.jp/kenshu/oyo2009/>

FAX: 03-3261-5473 (お問い合わせ TEL: 03-3261-2798)

参加費のお支払い：

参加費は、大学ごとに一括して11月10日(火)までに銀行振り込みによりお支払い下さい。キャンセルの場合は11月6日(金)までにご連絡いただければ振込み手数料を差し引いた参加費を返金します。それ以降のキャンセルは資料代等の実費を請求します。また、当日のキャンセルはホテルのキャンセル利用が100%発生しますのでご了承願います。

<振込先>

りそな銀行 市ヶ谷支店 普通口座

口座番号： 0054409
名義人： (社)私情協
シャ)シジョウキョウ

6. プログラム概要

事前・事後コミュニケーション

10月13日(火)より研究講習会前日まで、分科会ごとに事前の研修準備としてメーリングリストもしくはWebを利用して意見交換、ミニレポート、情報収集等を行う。各分科会の課題は、メールにて連絡する。研修終了後は、各分科会でレポートや最終成果物の作成、行動計画の起案等を行い、研修の成果を大学で活用できるよう、メールでコミュニケーションを継続する。

全体会

① 趣旨説明

研修運営委員長より本コースの開催意図、大学を取り巻く様々な課題、社会が大学教育に求めること等について解説を行い、研修を始めるにあたっての基本的な認識を共有する。

② 講義

本研修を進めるにあたって前提となる知識について、「大学改革と情報の活用」、「学士力の確保を支援するICT環境の構築」、「ICTを活用した教育支援、人材育成支援に求められるもの」等をテーマに講義形式により学ぶ。

③ 事例研究

各大学が掲げる「学士力」を育成するため、学生たちの学びに対する意識の転換を図り、自主的、創造的な学習者へと変革を促す組織的な支援が重要課題とされている。ここでは、教員と職員が協働し、ITを効果的に活用しながら学習支援活動に取り組む優れた実践事例に学び、教育改革へ向けた戦略的、実践的解決策を導き出す上で私たち職員に求められる視点について考えてみる。

- ・ 創価大学 「自律的学習者の育成に向けた学習活動支援とFD活動」
- ・ 関西大学 「ICTを活用した教育の国際化」

分科会

※いずれか一つの分科会を選んでください。

| | |
|-------|----------------------------|
| 第1分科会 | 学生の主体的な学びを支援するための学生情報の活用 |
| 第2分科会 | 教職協働で進める教育支援のマネジメント |
| 第3分科会 | 大学広報におけるWebサイトの戦略的構築と差別化 |
| 第4分科会 | 学生の自立的な学びを支援する大学図書館の役割 |
| 第5分科会 | 情報活用の重要性と情報システム部門の役割 |
| 第6分科会 | コミュニケーションツールを活用した学生支援体制の構築 |

分科会概要

第1分科会 学生の主体的な学びを支援するための学生情報の活用

各大学が掲げる「学士力」を学生に確実に身につけさせるためには、教職員それぞれが専門性、組織的対応力を発揮し、連携・協働する中で学生の学びを支援し、指導や助言の質を保証する戦略が問われている。電子的な「ポートフォリオ」や「学生カルテ」などのシステムは、目的ではなく手段である。重要なことは、学生情報の活用を通じて現状の問題を整理・分析、共有し、学びの支

援を組織的に取り組めるようにする情報通信技術活用のマネジメントである。

本分科会では、学生情報を組織的に活用する事例を踏まえ、実践的な学習支援の情報活用モデルの構想作りを通じて、学生一人々の質を保証する支援の仕組みを探究する。

討議テーマ

- ・「学習ポートフォリオ」活用の可能性と課題
学生自ら授業の到達目標に対する学びの成果を点検・評価し、自信がない点・できない点を明らかにする情報通信技術を活用したポートフォリオ構築の意義を確認する。その上で、大学としての補完学習、個人学習の体制など学士力の質保証支援の仕組みを探究する。
- ・「学生カルテ」情報の具体化と組織的な活用戦略の策定
一人々の学生を支援するため、学生の基本情報、成績・進路情報、相談・指導記録情報などの個人情報を教職員が総合的に共有する「学生カルテ」の内容について整理し、学生情報の一元管理のあり方、組織的な活用戦略について探究する。

獲得目標

- ・ 「ポートフォリオ」や「学生カルテ」を構築する教育的意義について理解を深める
- ・ 「ポートフォリオ」や「学生カルテ」を真に価値あるシステムとして活用するための組織的課題と職員の役割を認識する
- ・ 自大学の現状を分析し、導入によって期待される効果、その活用のための組織的な課題を整理することができる

想定される事例

- ・ 学生自らの「Plan-Do-Check-Action」を促す「ポートフォリオ」の構築と運用
- ・ きめ細かな個別支援を展開するための「学生カルテ」の構築と運用
- ・ 多様な学生を層別に分類し、それぞれに適合した学びを支援する取組

第2分科会 教職協働で進める教育支援のマネジメント

各大学では教育改善に向けた方策の実現に向け、中央教育審議会の提言も参照しながら、教職員が連携した新たな教育支援体制の構築と組織的な推進が求められている。例えば、ICTを活用した入学前学習、初年次教育、キャリア形成支援教育、体験型・双方向型授業、大学間および産学連携授業などの取組が挙げられるが、これらは教職協働による組織的なマネジメントがあってこそ実現する。

本分科会では、「教職協働で進める教育支援のマネジメント」とは何かについて、上記の取組を題材にその具体像を議論し、期待される効果、推進する際の課題、ICTの活用などについて検討する。

討議テーマ

- ・ 教育支援の具体例の整理
- ・ 実践的なマネジメントモデルの構想
- ・ 実現に当たっての課題の探求

獲得目標

- ・ マネジメントモデルの構想を通じて、具体的なイメージや意義を理解する
- ・ 自大学において教育支援のマネジメントを展開する際の課題を明らかにする

想定される事例

- ・ 職員による教育支援の企画・立案、マネジメントへの取組み

第3分科会 大学広報におけるWebサイトの戦略的構築と差別化

私立大学の広報戦略は、教育理念および教育成果を一層明確にして、自大学の人材育成に対する取り組みを社会に強くアピールすることにある。それには、社会の信頼に応え得る学士力の実現に向けて、学士力の公開、教育力向上への取り組みの紹介、第三者評価機関による結果の公開など、人材育成に関する現状と課題を社会に発信し、理解と支援・協力を得るための情報のオープン化が望まれる。これには、大学からの一方的な情報発信ではなく、Webの特性である双方向性を生かした取組が不可欠である。例えば、卒業生による授業の意義や学習の重要性に関するコメントを掲載したコラムの開設、教育支援に対する産業界等への要請、産業界等からの人材育成ニーズを把握する仕組みづくりなどが考えられる。

本分科会では、教育活動の情報公開の是非、可能性と課題を整理し、ステークホルダーに訴求す

る情報の内容について探求する。その上で人材育成支援の立場から社会と相互交流する場としての Web 広報のあり方を模索する。

討議テーマ

- ・ Web サイトによる教育活動オープン化の可能性と課題
- ・ 情報発信を停滞させる要因の分析と教職員連携の体制作り
- ・ ステークホルダーに訴求する情報の収集と精選
- ・ 社会と交流する人材育成フォーラム構想の探求
- ・ 志願者確保のための戦略的な Web サイトの構築

獲得目標

- ・ 自大学の広報戦略の現状を振り返り、教育情報オープン化の必要性を認識する
- ・ 人材育成支援を実現するための双方向的な Web サイトの有用性を認識する
- ・ Web サイト構築・運用上の人的・組織的課題の認識と解決の視点を獲得する

想定される事例

- ・ 先進的な Web サイトの構築に取り組んでいる事例
- ・ 志願者確保のための戦略的な Web サイトの事例
- ・ 国際化、ユニバーサル化など特色あるサイト構築の事例

第4分科会 学生の自立的な学びを支援する大学図書館の役割

教育現場の問題として、基礎学力の低下、学習意欲の低下が指摘されている。とりわけ、初年次教育の対応として自立的に学ぶ学習法の習得が喫緊の課題となっている。例えば、専門書の読み方・要点整理の仕方、ノートのとおり方、情報通信技術による調べ学習、文章構成技法などの支援がある。これらの支援は、専門性が要求されることから教員による学習支援センターなどの対応としている例があるが、図書館員の専門性を発揮する中で学習技法の習得を支援する取り組みが拡大しつつある。

本分科会では、大学図書館による学びの支援について取り組むべき課題を確認し、ICT を活用した戦略的・実践的な支援策を探求する。

討議テーマ

- ・ 図書館が備えるべき学びの支援機能の明確化
- ・ 学びの技法を習得させるための支援プログラム
- ・ 他部局や教員と連携した組織的な学習支援体制

獲得目標

- ・ 学生の自立的な学びを支援する機能と環境について課題を認識する
- ・ 自大学の現状を振り返り、適用可能な支援策を具体化できる
- ・ 他部局や教員との組織的な連携を提案することができる

想定される事例

- ・ 図書館による学習支援（明治大学：「教育の場」としての図書館の積極的活用 -図書館の持つ教育力を教育に活かす-）平成 19 年度「特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）」採択
- ・ 武庫川女子大学における教務課と連携した新生対象オリエンテーションの実施事例や、研修参加校を中心とした国内各校の取組み事例

第5分科会 情報活用の重要性和情報システム部門の役割

大学には、「知の拠点」として高度かつ多様な機能が求められている。このような状況の中で、情報システム部門は「システムの運用管理」から「知の資産の運用管理」へと役割の比重を転換する必要に迫られてきている。例えば、教育コンテンツの蓄積と再利用、研究成果情報の社会還元、経営情報の戦略的活用、生涯学習の充実などへの対応が挙げられる。このような役割を果たす上で、経営的観点から情報環境を見直し、知の資産の運用管理を合理的に進めるための新しい取り組みの構築が要請される。

本分科会では、外部データセンターの活用を含めた情報環境のあり方について抜本的な仕組みを構想する。また、情報資産管理の基本方針、制度、実施体制などを模索するとともに、情報システ

ム部門に求められるマネジメントの視点を探求する。

討議テーマ

- ・ 「知の資産の運用管理」へ比重を転換する意義
- ・ 情報システム部門の課題認識
- ・ 情報資産管理のマネジメントのあり方
- ・ 外部データセンターなど新たなサービス利用の効果やリスク評価

獲得目標

- ・ 情報システム部門の役割の転換を認識する
- ・ 情報資産の全体像を把握し、これをマネジメントする視点を獲得する
- ・ 外部データセンターなど新しいサービス利用の効果とリスクを認識する
- ・ 自大学の情報システム部門の将来的な役割を認識する

想定される事例

- ・ データセンターの活用によるメリット・デメリットの事例
- ・ 情報資産のアーカイブ化事例
- ・ 情報セキュリティ自己点検リストの事例

第6分科会 コミュニケーションツールを活用した学生支援体制の構築

授業についていけない、自ら学びに入れない、相談できない、友達を作れないなど、キャンパス内で孤立し、不安を抱える学生が増加してきている。その結果として、中途退学者が顕著になってきており、教育面はもとより経営面でも深刻な問題となっている。

大学は入学した学生一人々に対する責任を持った人材育成を使命とするものであることから、学生にコミュニケーションの機会を設け、親身になって不安を取り除く努力が求められてきている。例えば、入学前から大学とコミュニケーションをはじめ、新入生および在学生相互の交流の場を設ける、教職協同による組織的な学生支援のコミュニティ形成への取り組み等が喫緊の課題となっている。

本分科会では、コミュニケーションツール活用の可能性と課題を確認し、取り組むべき学生支援モデルの構想および実践上の課題を探求する。

討議テーマ

- ・ 入学前学習から卒業後のコミュニティ形成の重要性の確認
- ・ 「ポータル」、「SNS」等コミュニケーションツール活用の可能性と問題点の整理
- ・ 不安を取り除く実践的な学生支援モデルの構想（ICTを活用したコミュニケーションシステム、教職員の連携体制、モデルを推進する組織体制、個人情報取り扱い体制など）

獲得目標

- ・ 学生に対して「何を」、「何のために」、「どのように」という視点から ICT 活用の基本的な考え方について認識を深め、コミュニケーションツールの可能性と課題を明らかにする
- ・ 学生支援体制を強化するための「教職員の役割・かかわり方」について認識を深める
- ・ 自大学における現状の課題を認識し、コミュニケーションツールを活用した学生支援の方向性と具体的施策を検討するにあたっての視点を獲得する

想定される事例

- ・ 入学前教育と ICT の活用について
- ・ First Year Seminar と ICT の活用について
- ・ 職員の副担任制と ICT の活用について
- ・ ピアサポートと ICT の活用について

参考：平成20年度 **参加者の声**
～ アンケートより一部抜粋 ～

■限られた時間の中、一つの目的を達成するために、最初は見知らぬ者同士が情報を共有しながら問題点を掲げ、知恵を出し合いながら交流を深められたことは素晴らしい経験であった。同時に自分

自身の意識改革にもつながった。

(30代 学修支援分科会)

- 入学前から基礎学力が低い学生を受け入れざるを得ない現状があるため、ポートフォリオを活用し、学生が自発的に勉学に立ち向かえるための支援を行い、学問の楽しさや物事を成し遂げたときの充実感を味わわせてあげたい。
(20代 学修支援分科会)
- 事例研究とディスカッションという相乗効果、また、参加者同士の交流によって大変有意義でありました。また、3つの講義の内容が段階的に組まれており、かつ実践例の具体的な提示もあったため、その後のディスカッションでの議論も的確に課題の洗い出しと共有ができました。
(30代 キャンパスライフ支援分科会)
- 大学間の競争意識というよりは大学としての向上心が必要と感じた。組織としてどう表現・具体化していくのかを考えたい。
(20代 キャンパスライフ支援分科会)
- 学生サービスにおけるITの可能性を強く感じた3日間でした。この研修は今後とても重要な役割を担うものだと思うので自分の成長とともにまた参加をしたいと思います。
(20代 キャンパスライフ支援分科会)
- 各大学の問題点や課題を聞かせていただくことにより、自大学の足りないものなどが鮮明になった。一方で、利便性の追求が「本当に学生にためになるのか」考えてしまいました。IT導入の必要性とともに対面の重要性を再度認識させられる研修となりました。
(30代 キャンパスライフ支援分科会)
- 図書館職員全員に、図書館職員である前に大学職員であるという意識を持つことを伝達し、教員、他部署の職員に積極的にヒアリングをし、連携を持つ。学生に自主的に学ぶことを習慣付けさせたい。
(30代 図書館分科会)
- 事例や討議を通じて学んだことを踏まえ、再度大学の中でも今後取り組むべきこと、問題点、自分自身が果たすべき役割などについて検討し、行動を実践していきたいと思います。
(20代 情報システム部門分科会)
- どの大学も、教員、職員間の連携等について課題を持っていて、有意義な討議ができたと思います。基礎知識や他大学の動向については大変多くを学ばせていただきました。自分の中で十分消化して、本学にもそのエッセンスを提案し改善に努めたいと思います。
(20代 ITを活用したコミュニケーション分科会)

※分科会は平成20年度のものです。